

## ユニバーサルデザインと生徒指導の三機能を関連させた授業作成シート

	授業のユニバーサルデザイン化	生徒指導の三機能を生かした授業
過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導上の留意事項 【ユニバーサルデザインの指導・支援項目】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒指導の三機能 ・具体的な手立て</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電子黒板等を活用して、学習内容の見せ方を工夫している。【学習内容の視覚提示】</li> <li>○単元全体の流れを掲示やワークシートで生徒に提示し、見通しをもたせている。【視覚化】</li> <li>○ゲーム・クイズ形式・間違い探し・教材を隠すなど、全員が参加できる活動を仕組んで、意欲を高めている。【視覚化・焦点化】</li> <li>○めあてを、常に見える位置に提示するなど工夫している。【めあての提示】</li> <li>○活動の流れを黒板やワークシートに示し、見通しをもたせるように工夫している。【本時の流れの確認】</li> <li>○活動内容や課題解決すべきことを身近な生活に結び付けて、イメージをもたせている。【焦点化】</li> <li>○既習事項を確認するなど、知識・技能のスパイラル化を図っている。【スパイラル化】</li> <li>○取り組もうとしていることを肯定的に評価し、意欲を高めている。【肯定的評価】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己決定の場を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてや活動内容をノートやワークシートに書かせたり、発表させたりしている。</li> <li>・導入の思考場面で、自分の考えをペアやグループ、全体で発表させている。</li> </ul> </li> <li>●自己存在感を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を確認する活動を仕組み、肯定的な評価をしている。</li> <li>・個人や学級の学習環境が整っている場合に、肯定的な評価をしている。</li> </ul> </li> <li>●共感的人間関係を育成する           <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の発問に対して、ペアやグループで思考させ、互いに意見交流をする場面を設定している。</li> <li>・活動に対して意欲的ではない生徒に対して、共感しながら手立てを与えていく。</li> </ul> </li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヘルプカードやヒントカードなど、わからないと言える環境づくりを仕組んでいる。【視覚化】</li> <li>○思考の時間を確保したり、タイマーで時間を提示するなど、授業に空白の時間をつくらないような工夫をしている。【視覚化・共有化】</li> <li>○やり方等の理解をそろえ、解決できるイメージをもたせる。【モデルやヒントの提示】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己決定の場を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で調べたり、考えたりする時間を十分に与えている。</li> <li>・自分の考えをみんなの前で発表する場を設けている。</li> <li>・自分の考え方やノートの取り方を指導している。</li> <li>・興味・関心をもつように、資料や教材提示を工夫している。</li> <li>・思考場面や観察場面で、考えたり、観たりする視点を示している。</li> <li>・多様な考えを生むような発問を工夫している。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>○活動のルールを提示し、全員の理解をそろえている。【視覚化】</p> <p>○課題の解決方法を考えさせたり、提示したりして、解決できるイメージをもたせている。【モデルやヒントの提示】</p> <p>○学習している内容が、他教科や身近な生活と結びつく場面を設定している。【焦点化】</p> <p>○教材・教具の示し方を工夫し、観点や視点に気付かせ、考える内容を方向付ける。【観点や視点の提示】</p> <p>○教材の「なぜ？」を引き出し、学習意欲を高めている。【観点や視点の提示】</p> <p>○選択肢をつくる、隠す、間違えるなど教材にしかけをつくり意欲を高める工夫をしている。【観点や視点の提示】</p> <p>○教材を比較・分類・関連付けることで、意欲を高める工夫をしている。【観点や視点の提示】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己存在感を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握し、授業のどの場面で、どの生徒を生かすことができるかを考えている。</li> <li>・役割分担をさせて、一人一人が追究活動に参加するよう促している。</li> <li>・生徒が協力して学習できるように、ペア学習やグループ学習などを取り入れている。</li> <li>・グループで協力しなければ解決できない学習課題を設定している。</li> <li>・つまずきや誤答などを取り上げ、課題解決の方法を思考する上で、みんなのためになったことを評価している。</li> <li>・一人一人に丸付けを行ったり、良いところを具体的に評価したりしながら、計画的に机間指導を行っている。</li> <li>・授業に意欲を見せない生徒や学業が振るわない生徒も、学習していくけるような配慮をしている。</li> <li>・発言しない生徒に配慮している。</li> </ul> </li> </ul>
展開	<p>○相互評価の観点を共有し、考える内容を方向付けている。【観点や視点の提示】</p> <p>○教師の発問、生徒の発言を板書したり、ホワイトボードを活用するなど、見える化する工夫をしている。【視覚化】</p> <p>○身体を使わせることで、表現に気付かせたり理解を深めさせたりしている。【動作化】</p> <p>○先生の話を聞くだけの授業にならないように、生徒の活動場面を仕組んでいる。【動作化】</p> <p>○ペアやグループによる話合い活動等で、言語化させ合い、理解を深めさせる。【共有化】</p> <p>○スマールステップ学習など段階的に達成できる活動を仕組んでいる。【スマールステップ】</p> <p>○取り組んでいる過程をスマールステップで評価し、意欲を持続させている。【肯定的評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●共感的人間関係を育成する           <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発表に対して、うなずきや相づちで応え、共感的に受け入れている。</li> <li>・良い姿や頑張っている姿は褒め、好ましくない行為については正すことを心掛けている。</li> <li>・相互評価など、お互いのよさを認め合う活動を取り入れている。</li> <li>・仲間の発表に対しては、発表者の方を向いて聴かせたり、拍手をしたりするような雰囲気づくりを行っている。</li> <li>・生徒同士の発言をつなげ、集団での学び合いとなるようにしている。</li> <li>・ペア学習やグループ学習で、課題解決に向けて教え合いの場面を設定している。</li> <li>・間違った回答を笑わないように指導している。</li> <li>・一人一人を受け入れて褒め、生徒の人間性を認めている。</li> <li>・教師主導にならず、生徒のテンポに合わせながら授業を進めている。</li> </ul> </li> </ul>
終末	<p>○めあてに対し、発言させたり書かせたりして振り返らさせることで、できたことを実感させている。【振り返りでの言語化】</p> <p>○自己評価・他者評価・相互評価等により、できたことや課題を認識させている。【肯定的評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己決定の場を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを発表をしたり、書いたりしている。</li> </ul> </li> <li>●自己存在感を与える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに対する振り返りや、課題解決に向けて取り組んだ姿など、生徒が活躍した場面を取り上げ、肯定的に評価している。</li> </ul> </li> </ul>